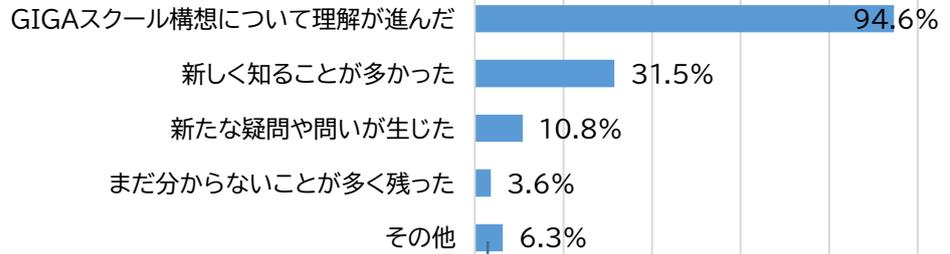
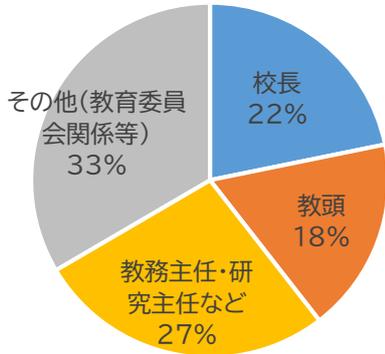




数字で見る「第3回学びの改革ミニフォーラム」(参加者アンケートより)

参加申込者数 **272名**

講演「なぜ今、GIGAスクール構想なのか」について、どのようにとらえましたか。



- ・学校現場には進めていかななくてはならない側面がとても多いと感じた。
- ・学校でできることはやっているのに、ネットワークの高速大容量化を急いでほしい。
- ・今こそ、生徒と先生で活用を進める時だと強く感じた。等

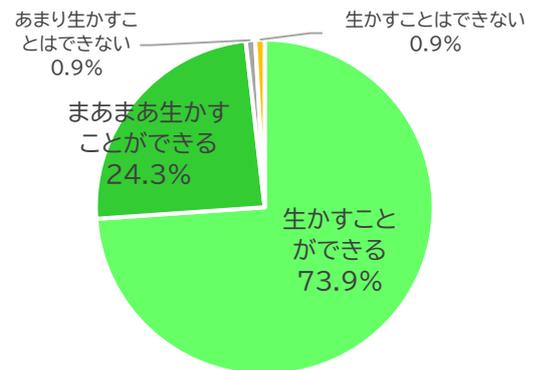


参加された方の生の声

ICTのスキルの差

世の中は確実に変化していることを改めて認識できた。ICTのスキルの差が子どもたちの学力差にならないよう、ツールとして使っていきたい。また、教職員の力量の差が大きいように感じている。その差が子どもたちに影響しないよう、校内で研修を行ったり教科会内で教材を紹介しあうなど、機器の扱いを苦手とする職員の支援に努めたい。

ミニフォーラムは、自校の学びの改革に生かすことのできる研修となりましたか。



これからの社会に生きていく子どもたち

子どもたちはタブレットやスマホを身近にとらえており、ICT活用にためらいを感じているのは、実は自分自身であろう。(入力するよりも鉛筆で書く方がためになるとか)そうしたとき、認識しないといけないのは、私たちの価値観ではなく、社会のニーズ、社会に生きていく児童のスキルとしてICT活用は欠かせないということだ。堀田先生のお話から今目の前にいる子どもたちに、ICTを道具としてさらに有益に使っていく必要性を感じました。

自分で学べる

「先生から教えてもらえる内に先生から教えてもらわなくても学べるようにしておくことが必要」との言葉が印象に残りました。私たち大人も確認したい言葉です。

分からなくても使ってみる

「先生自身が全て知らなくても良いんだ。子供達の“やりたい”という意欲を尊重すれば、教えるより吸収していることがわかった」という若手の先生の言葉が印象に残りました。分からないから使わないのではなく、分からなくても使ってみる…これもまた、生徒自らが思考を深めながら発見していくことにつながることであるのかもしれない。

本ミニフォーラムの

こんな活用の仕方

郡校長会と重なっていたため、校長会長にお願いして、校長会研修としてプロジェクトで映し、郡内全校長で学ばせていただきました。ありがとうございました。

県教育委員会では、長野県 ICT 教育推進センターを開設しました。県HPから「教育 DX お悩み相談室」など支援メニューをご覧ください。

